

第46期 決算説明資料

(2011年4月1日 ~ 2012年3月31日)

株式会社 **工ノモト**

【会社名】 株式会社 **エノモト**

【英訳名】 ENOMOTO Co.,Ltd.

【証券コード】 6928 **JASDAQ**

【URL】 <http://www.enomoto.co.jp/>

【代表者】 代表取締役社長 榎本 正昭

【問合せ先】 専務取締役 管理本部長 山崎 宏行

【E-Mail】 ir@enomoto.co.jp

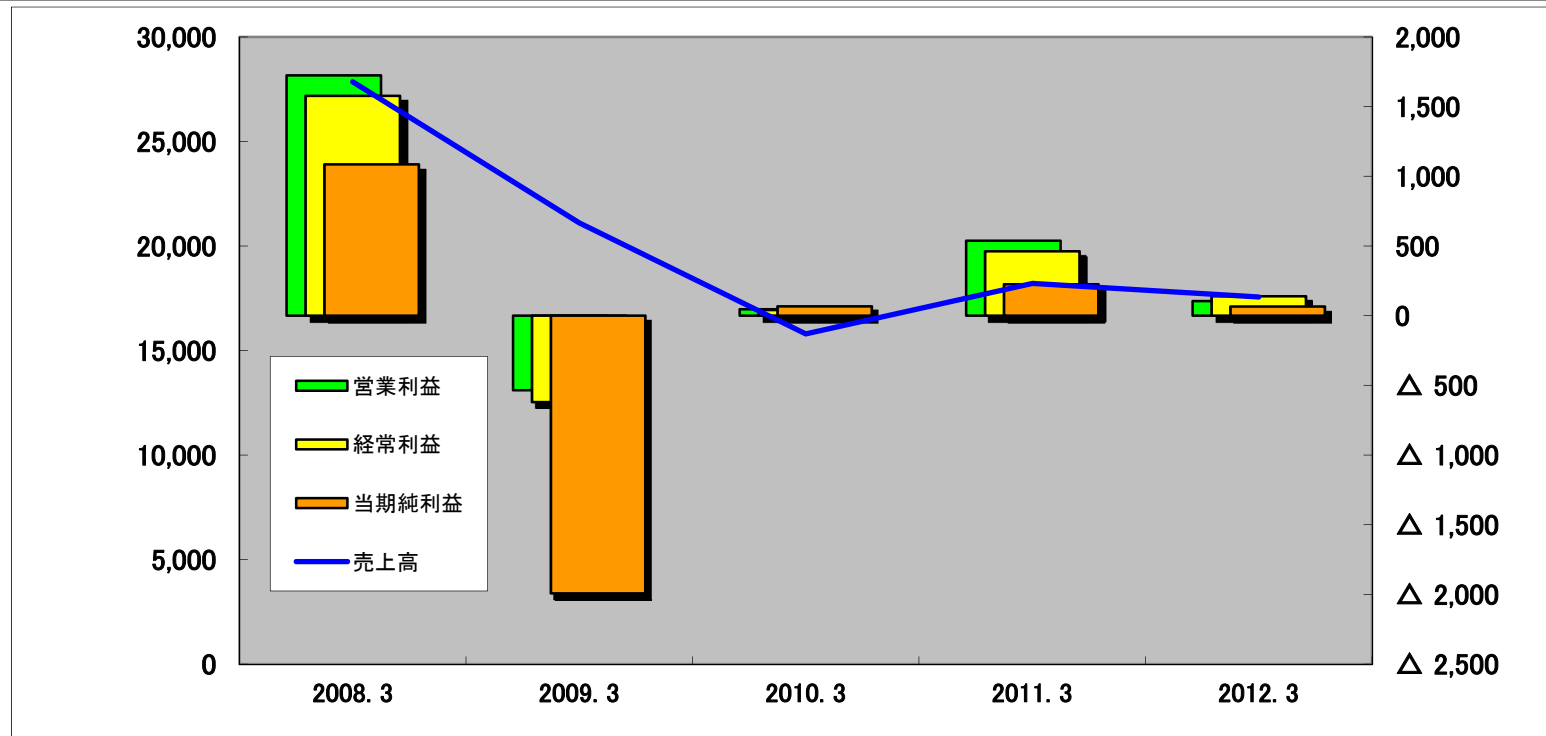
【本社所在地】 山梨県上野原市上野原8154-19

【電話番号】 0554(62)5111(代表)



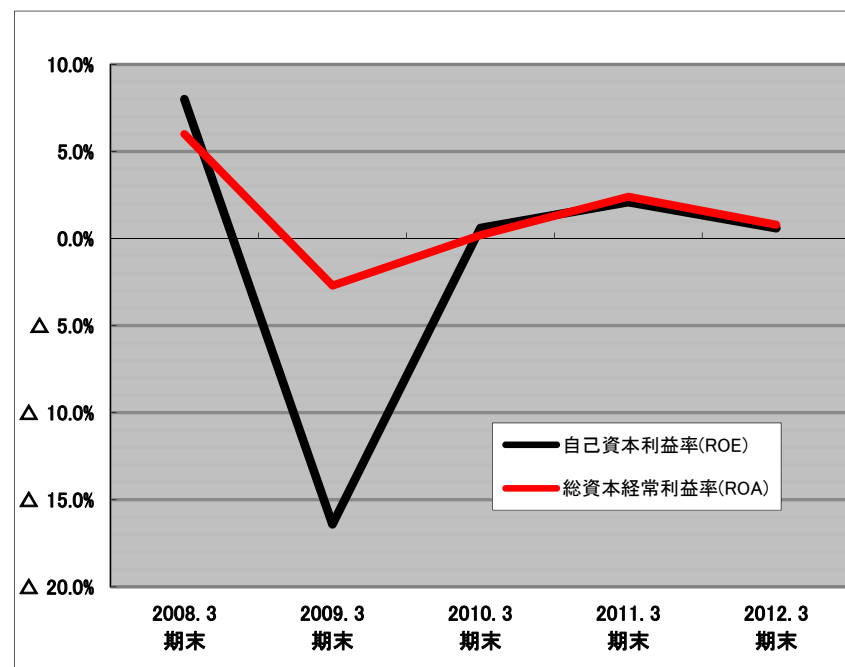
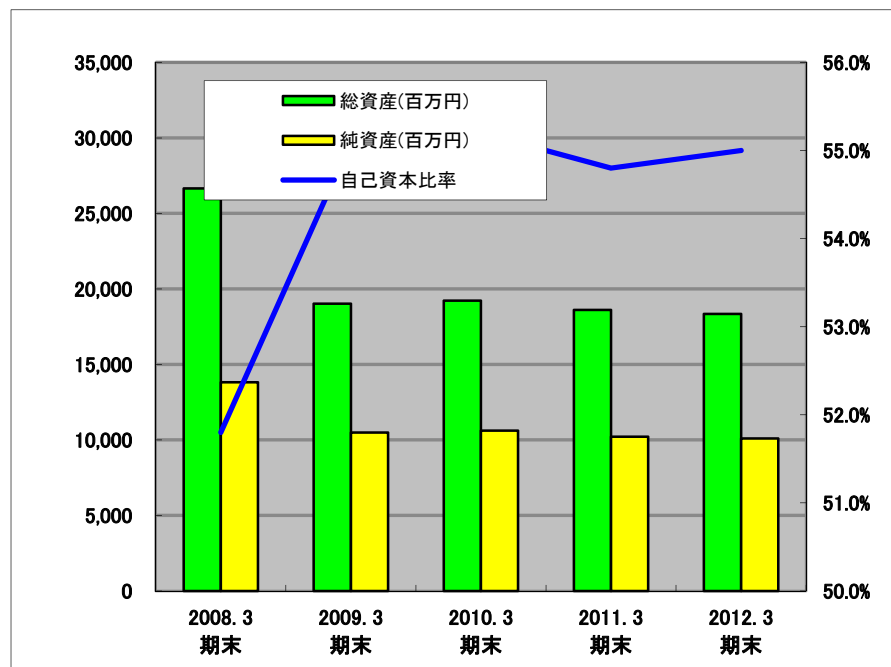
当期のご報告

■ 連結業績の推移



	2008.3	2009.3	2010.3	2011.3	2012.3	前期比
売上高	27,851	21,109	15,795	18,204	17,533	3.6%減
営業利益	1,724	△ 535	46	537	105	80.3%減
営業利益率	6.2%	-2.5%	0.3%	3.0%	0.6%	2.4P減
経常利益	1,577	△ 620	40	462	139	69.9%減
経常利益率	5.7%	-2.9%	0.3%	2.5%	0.8%	1.7P減
当期純利益	1,085	△ 1,993	67	225	65	70.9%減
当期純利益率	3.9%	-9.4%	0.4%	1.2%	0.4%	0.8P減

百万円



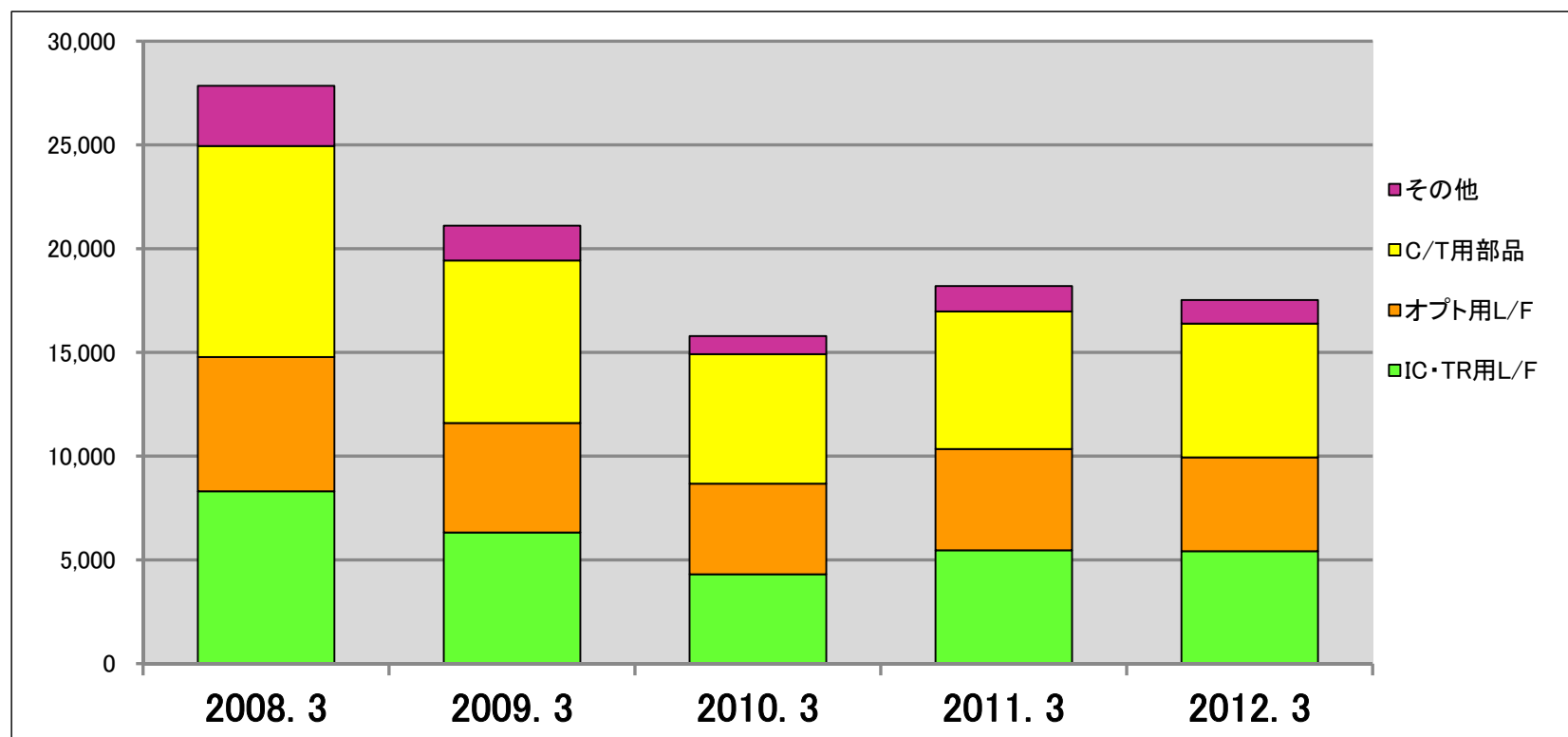
	2008.3 期末	2009.3 期末	2010.3 期末	2011.3 期末	2012.3 期末
総資産	26,661	19,029	19,228	18,608	18,351
純資産	13,816	10,488	10,617	10,211	10,103
自己資本比率	51.8%	55.1%	55.2%	54.8%	55.0%
自己資本利益率(ROE)	8.0%	-16.4%	0.6%	2.1%	0.6%
総資本経常利益率(ROA)	6.0%	-2.7%	0.2%	0.2%	0.8%

当期におけるわが国の経済は、東日本大震災後、市場は一時的に大きな打撃を受けたものの、サプライチェーンの回復が進み、緩やかながら景気の持ち直しの傾向がみられました。しかし、夏場の電力不足や円高、海外経済の減速、タイで発生した洪水の影響等により、先行き不透明なまま依然として厳しい経営環境下での推移となりました。

当社グループの主な需要先であります半導体・電子部品業界におきましては、スマートフォンやタブレット型端末等のアイテムを中心に市場の拡大傾向が続いていることから、マイクロピッチコネクタ用部品の受注は概ね高水準で推移いたしました。しかしながら、自動車及びIT・デジタル家電等の受注状況については、東日本大震災の復旧需要並びに夏場の電力不足に対応するための省電力機器向けの需要が一時的に増加いたしました。タイで発生した洪水の影響により、東南アジア域内を中心に自動車及び電子部品に関わるサプライチェーンにも大きな混乱がみられ、一部の製品におきまして、第3四半期以降受注量が大幅に落ち込みました。

このような厳しい環境下において、当社グループは市場動向を見極めながら、積極的な営業展開を行うとともに、顧客のニーズに応えるべく生産性並びに品質の向上に注力して参りました。しかしながら業績につきましては、震災やタイ洪水の影響による売り上げの落ち込みをカバーするには至らず、当期の売上高は前期に比べて3.6%減少の175億3千3百万円となりました。また、営業利益は1億5百万円、経常利益は1億3千9百万円、当期純利益は6千5百万円となりました。

■製品群別業績(売上高)



	2008. 3	2009. 3	2010. 3	2011. 3	2012. 3	前期比
IC・TR用リードフレーム	8,310	6,325	4,311	5,467	5,425	0.7%減
オプト用リードフレーム	6,473	5,277	4,368	4,879	4,522	7.3%減
コネクタ用部品	10,167	7,827	6,243	6,632	6,444	2.8%減
その他	2,900	1,679	871	1,224	1,140	6.8%減
合計	27,851	21,109	15,795	18,204	17,553	3.6%減

① IC・トランジスタ用リードフレーム

当製品群は、自動車向け、及び民生用機器と呼ばれる一般家電向けが主(おも)なものであります。東日本大震災によるサプライチェーンの混乱から回復し、一旦は安定した受注を確保するに至りましたが、再び、タイの洪水によりサプライチェーンが大きな打撃を受け、車載向けリードフレームの受注は低調なものとなりました。その結果、当製品群の売上高は前期と比べて0.7%減少の54億2千5百万円となりました。

② オプト用リードフレーム

当製品群は、LED用リードフレーム及びレーザー用部品が主なものであります。LED用部品及びレーザー用部品が主なものであります。第1四半期におきましては震災の影響を受け、受注に落ち込みが見られましたが、夏場の電力不足が懸念される中、消費者の節電志向が高まり、照明やディスプレイ向けのLED用リードフレームの受注は堅調に推移いたしました。しかし第3四半期以降は、タイの洪水の影響を受け、車載向けの受注は低迷致しました。その結果、当製品群の売上高は前期と比べて7.3%減少の45億2千2百万円となりました。

③ コネクタ用部品

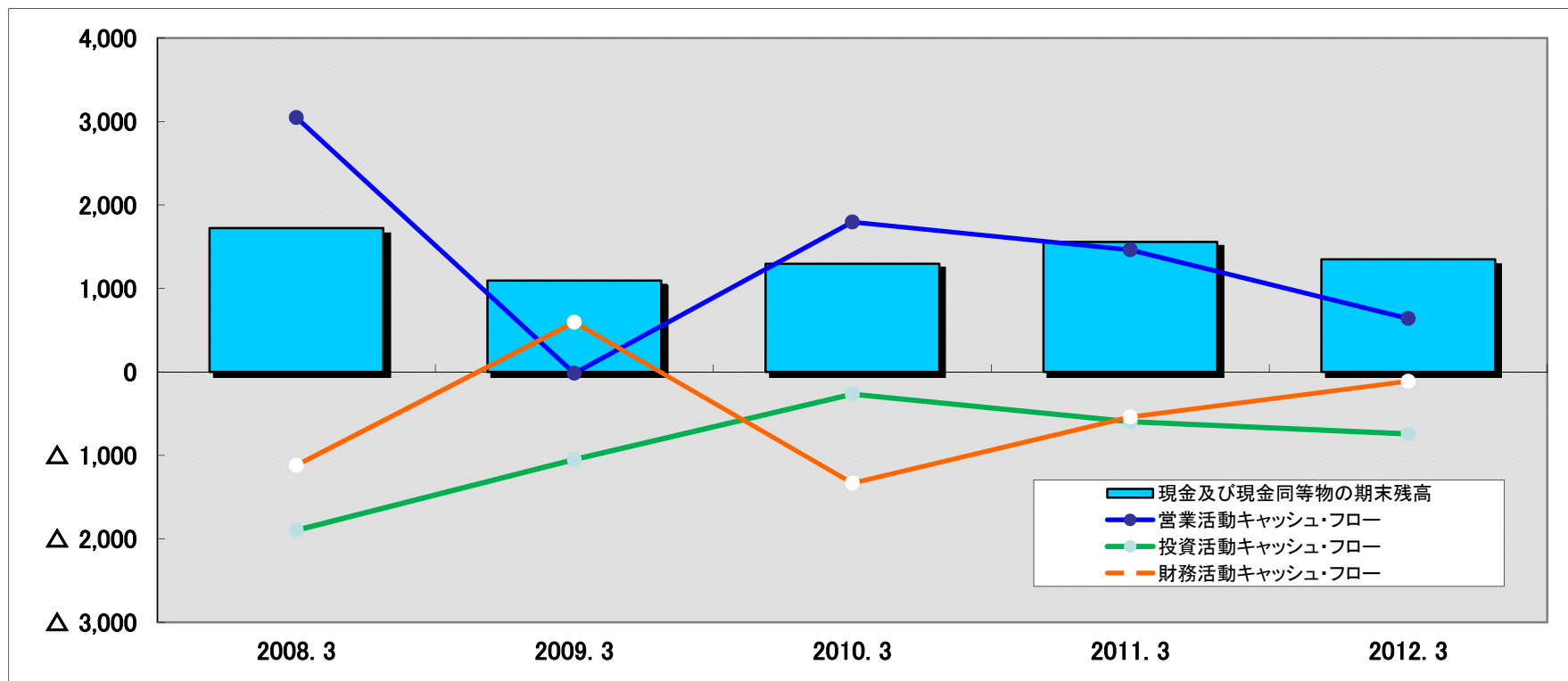
当製品群は、携帯電話向け、デジタル家電向けが主(おも)なものであります。携帯ゲーム機やデジタル家電向けの受注は振るわない状況でありましたが、スマートフォン市場の拡大により、当社のマイクロピッチコネクタ用部品の受注が増加し、受注は堅調に推移いたしました。その結果、当製品群の売上高は前期と比べて2.8%減少の64億4千4百万円となりました。

④ その他

その他の製品群としては、リレー用部品が主なものであります。当製品群の売上高は前期と比べて6.8%減少の11億4千万円となりました。

■ キャッシュ・フロー

百万円



	2008.3	2009.3	2010.3	2011.3	2011.3	前期比
営業活動キャッシュ・フロー	3,047	Δ 17	1,795	1,462	640	-822
投資活動キャッシュ・フロー	Δ 1,897	Δ 1,050	Δ 267	Δ 596	Δ 743	-147
財務活動キャッシュ・フロー	Δ 1,119	595	Δ 1,333	Δ 541	Δ 112	429
現金及び現金同等物の期末残高	1,722	1,093	1,296	1,557	1,349	-208

当期における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前期末に比べ2億8百万円減少し、当期末には13億4千9百万円となりました。

当期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

➤ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、得られた資金は6億4千万円(前年同期比56.2%減)となりました。これは主に減価償却費10億1千8百万円の計上による資金の増加、たな卸資産1億9千4百万円の増加及び仕入れ債務2億3千9百万円の減少による資金の減少であります。

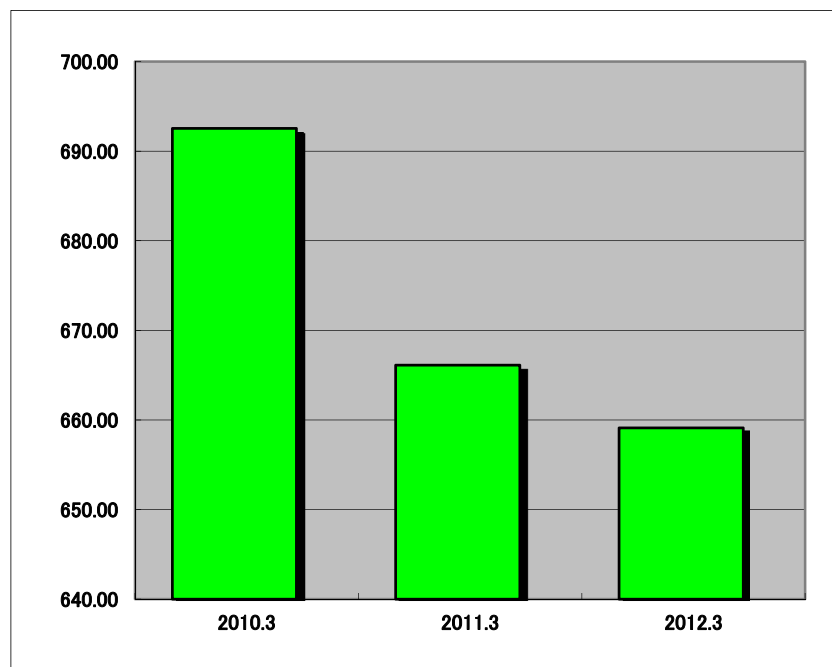
➤ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は7億4千3百万円(同24.6%増)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出7億7千2百万円によるものであります。

➤ 財務活動によるキャッシュ・フロー

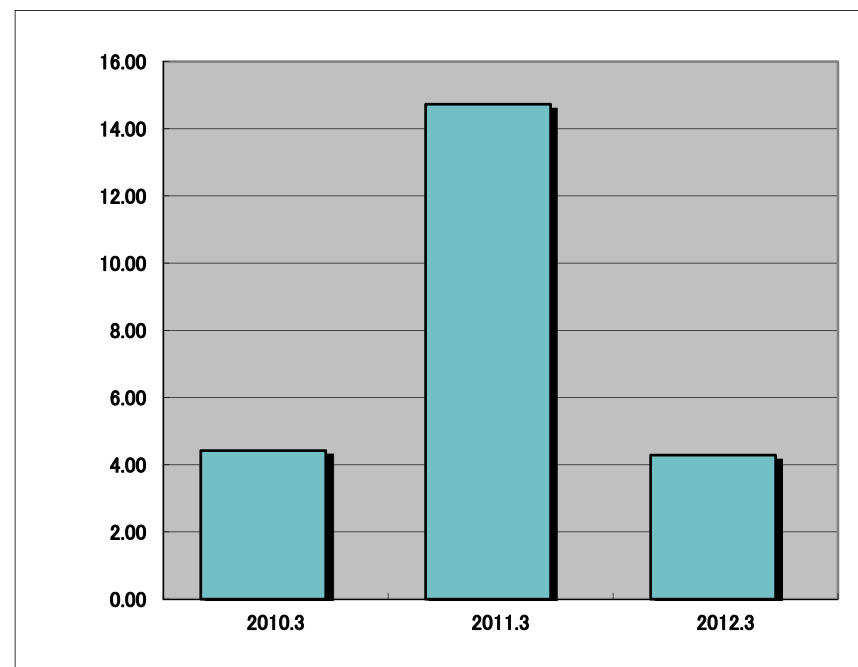
財務活動の結果使用した資金は1億1千2百万円(同79.1%減)となりました。これは主に借入金の純増額1億5千9百万円及び社債の返還1億2千万円、配当金の支払い1億3千7百万円の資金の減少であります。

1株当り純資産(連結)



1株当り当期純利益(連結)

円



	2009. 3	2010. 3	2011. 3	2012. 3	前期比
1株当り純資産(連結)	684.11	692.54	666.13	659.12	1.1%減
1株当り当期純利益(連結)	△ 130.03	4.42	14.73	4.29	70.9%減

○配当について

当社グループは、株主に対する利益還元を経営の最重要政策と位置づけており、将来の事業展開と経営基盤強化のために必要な内部留保を確保しつつ、利益配分を安定かつ継続的に実施することを重視し、利益水準や配当性向などを総合的に判断して、適切な利益配分を行っていくことを基本方針としております。

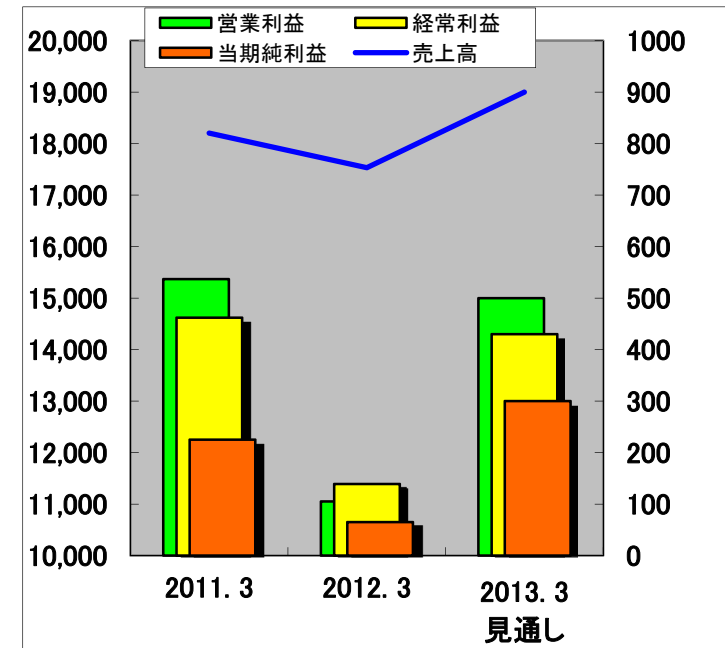
当期の1株当たり期末配当金は2円とさせていただきます。先の中間配当金と合わせた年間配当金は、前期に比べて4円減配の6円となります。

2013年3月期
の見通し

● 連結

百万円

	2011. 3	2012. 3	2013. 3 見通し	前期比
売上高	18,204	17,533	19,000	8.4%増
営業利益	537	105	500	376.2%増
営業利益率	3.0%	0.6%	2.6%	2.0P増
経常利益	462	139	430	209.4%増
経常利益率	2.5%	0.8%	2.3%	1.5P増
当期純利益	225	65	300	361.5%増
当期純利益率	1.2%	0.4%	1.6%	1.2P増



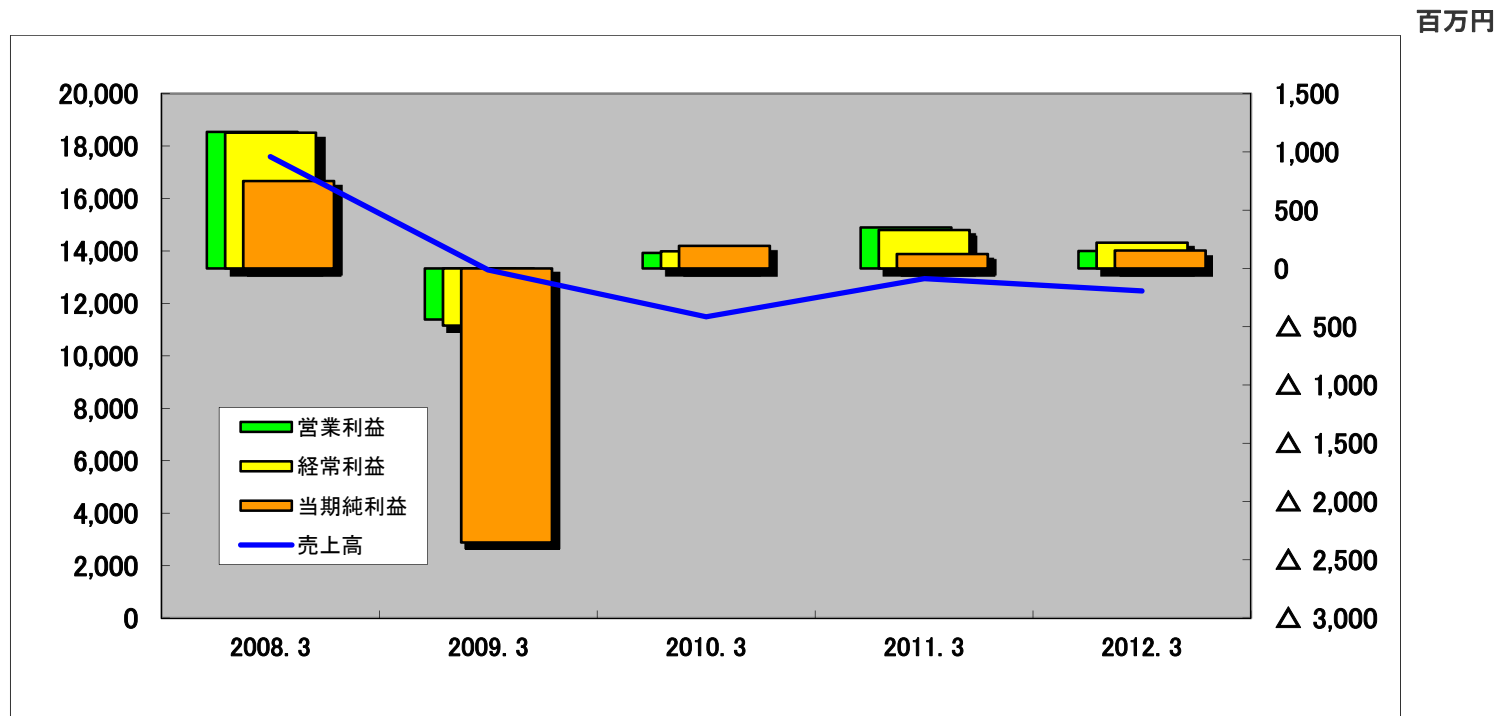
次期の見通しといたしましては、国内の景気動向については、当期も復興需要により緩やかながら景気回復傾向が持続していくと思われませんが、当面は緩やかなものにとどまるものと思われれます。また、現在市場を牽引しているスマートフォン及びタブレット型端末市場については今期も拡大が継続すると見込まれ、マイクロピッチコネクタ用部品についての需要は増加基調で推移するものと予測しております。また、LED用リードフレーム及び車載用デバイス向けリードフレームにつきましては、景気回復と同調しながら夏場以降、緩やかに回復していくと予想しております。

一方で、原発停止による電力供給の制約や生産の低迷、欧州の政府債務危機による景気の下振れリスクが顕在し、また、円高の定着化やデフレの影響、雇用環境の悪化懸念等、景気を下押しする要因も依然として存在しております。

このような環境下、当社グループは品質改善活動や製造コスト低減の推進をはじめ、当社の強みである金属と樹脂の精密複合加工技術をベースに新規の顧客開拓を積極的に行う等、全社一丸となって売上及び収益力の向上に努めて参ります。当社グループの平成25年3月期の通期の連結業績予想は、売上高は前期と比べ8.4%増加の190億円、営業利益は5億円、経常利益は4億3千万円、当期純利益3億円を見込んでおります。

補足資料

■単体の業績推移



	2008. 3	2009. 3	2010. 3	2011. 3	2012. 3	前期比
売上高	17,592	13,270	11,490	12,941	12,470	3.6%減
営業利益	1,171	△ 438	133	351	150	57.1%減
営業利益率	6.7%	-	1.2%	2.7%	1.2%	1.5P減
経常利益	1,164	△ 490	147	330	221	32.8%減
経常利益率	6.6%	-	1.3%	2.6%	1.8%	0.8P減
当期純利益	750	△ 2,352	194	123	153	24.0%増
当期純利益率	4.3%	-	1.7%	1.0%	1.2%	0.2P増



中期経営方針

経営品質の向上と
新たな価値の創造

2012年度 経営重点テーマ

“スピード”が
最大の顧客サービス

- ・ スピードを活かした経営判断
- ・ スピードを活かした顧客対応
- ・ スピードを活かしたモノ造り

2011年度より5カ年の中期経営方針として『経営品質の向上と新たな価値の創造』を掲げ、今後わが社がグローバルに発展し、【高技術】【高効率】【高収益】の企業グループへ脱皮するための改革を全社レベルで推進しております。

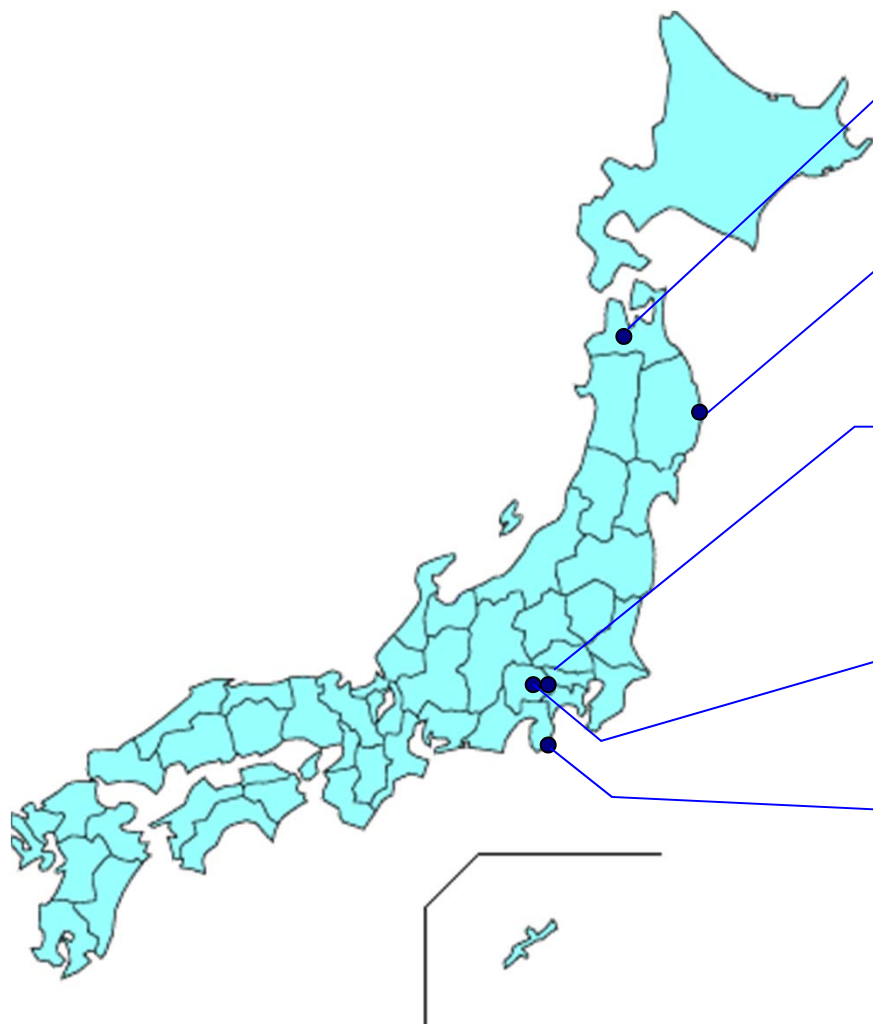




当社グループが対処すべき課題として、中期的な経営方針として掲げた項目の実現のために、特に年度毎に経営重点課題を設定して全社的な取り組みを推進しております。

新中期経営方針の二年目にあたる2012年度の経営重点課題としては、事業活動の中心となる「経営判断」「顧客対応」「モノ造り」の全ての過程においてスピードアップを図る事を掲げました。

また、全社スローガンとして「スピードが最大の顧客サービス」を掲げ、当社グループの全ての従業員の力を一つにして、顧客や市場に対しての感度を一段と高め、《高技術》×《高効率》×《高収益》な企業グループを目指しモノ造りに専心して参ります。



・津軽工場

青森県五所川原市大字漆川字玉椿191-1
TEL.0173-33-0570 FAX.0173-34-5206

・岩手工場

岩手県上閉伊郡大槌町大槌第10地割39
TEL.0193-42-8511 FAX.0193-42-8513

・本社／上野原工場

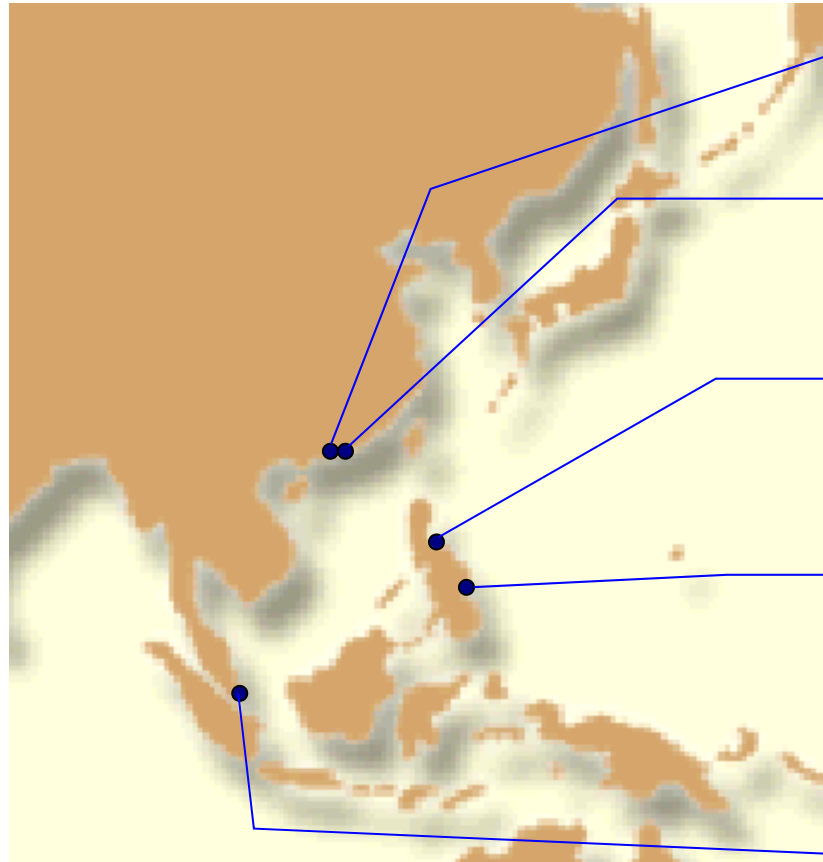
山梨県上野原市上野原8154-19
TEL.0554-62-5111 FAX.0554-63-4193

・塩山工場

山梨県甲州市塩山熊野666
TEL.0553-32-1111 FAX.0553-32-1159

・下田工場

静岡県下田市加増野字大古隅12-1
TEL.0558-28-1550 FAX.0558-28-1552



▪ **ZHONGSHAN ENOMOTO Co.,Ltd.**
広東省中山市火炬開發区逸仙工業区
TEL.+86-760-8533-5111 FAX.+86-760-8533-5113

▪ **ENOMOTO HONG KONG Co.,Ltd**
香港九龍梳士巴利道3号星光行1805室
TEL.+852-2199-7848 FAX.+852-2199-7918

▪ **ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.**
PEZA-Gateway Business Park Javalera Gen.Cavite Philippine.
TEL.+63-46-433-0263 FAX.+63-46-433-0264

▪ **ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.**
CEBU OPERATIONS
Cebu Light Industrial Park, Special Economic Zone, Washington Road,
Basak, Lapu-Lapu City, Cebu, Philippines 6015
TEL.+63-32-341-2223 FAX.+63-32-341-2228

▪ **ENOMOTO PRECISION ENGINEERING(S)Pte.Ltd.**
30Loyang Drive,Singapore 508945
TEL.+65-6542-4542 FAX.+65-6542-2484

注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。

ENOMOTO Co.,Ltd.